



岐蘇林

目次

- 調査
 - 奈半利小林區署
 - 由野貯木場要覽
 - 果實の力
 - 彷徨へる猫の子
 - 南洋ホルネオ島の林業及林産
- 通信
- 秋田便り
- 文苑
 - ス井トホム
 - (承前)
- 和歌
- 雜報
 - 學校便り
 - 會員消息
 - 廣告
 - 編輯部より
 - 長野縣告示第九十號

大正八年三月廿五日 第百三十三號 每星期日發行 明治四十四年六月十四日 (第三種郵便物認可)

調査

大正七年十一月

奈半利小林區署 田野貯木場要覽

小崎次郎

當場は明治三十九年魚梁瀬事業區官行斫伐事業開始に付き其の製品貯藏場とし當地の貯水地及砂濱地に相當の設備を施し全四十年初頭より筏材として續々到着藏置したるに始る、然れども當時の設備は單に一時貯藏の目的を達するに必要な仮設的のものにして、別に專營地域を有せず、併立地としては主として官有砂濱地を利用し單に若干の借入地を有するに過ぎざりしか、全四十四年に至り馬路當地間の軌道開通せし以來奈半利及馬路兩小林區署へ兩管内に於ける連年所定の官行事業、生産品貯藏販賣の要を生じ、茲に必要な地域を購入の上幾多の倉庫を建設し溝渠を通じ軌道を敷設する等施設の稍や見るべきものあるに至れり而も所定の計劃に對しては今尙ほ其半に達せず、近日機關車運轉の曉に至らば當場の面目更に一新すべきを疑はず

當場の地域及貯藏力
當場の專營地域は左の如し

- 一、五町壹反六畝廿四步 陸上併立地(第一貯木場)
- 一、九反貳畝十二步 板及小仕成物貯藏地(第二貯木場)
- 一、四反八畝廿九步 借入陸上貯藏地(第三貯木場)
- 一、三町四段四畝廿九步附屬地(全場内砂濱)
- 一、八反二畝步 貯水池

計、十町八反五畝四步

右地域中第二貯木場内には板及小仕成物收納倉庫七棟此建坪六〇六坪五合炭納屋三棟此建坪二九九坪を有し此等場内の總貯藏力は造材十五萬石、正六分板四萬坪(野外を併せて十萬坪)木炭一萬五千俵を裕に收容するに足るの設備を有す、

現在作業地と當場との關係

當場に搬出する製品中魚梁瀬事業區谷山北平山よりするものは最も顯著なるものにして、數量價格共其の主位を占め全部軌道に依りて搬出す、馬路事業區安田川山材及馬路製材所製品も亦全部軌道によりて搬出するものにして、獨り奈半利事業區野川山材は半ば軌道に依り半ば水路若しくは車道に依るものとす、而して各其運搬巨離及目下の運賃率は左の如し

種材	年度						備考
	元年度	二年度	三年度	四年度	五年度	六年度	
杉	三三、三五〇	八〇、六〇五	一〇九、八〇五	一〇三、六七一	五九、一六六	四三、〇〇九	八四八
松	六八、三八四	一五〇、一五一	一一〇、四九八	八九、三四〇	八九、七一一	九〇、二八九	三二一
榿	三六、五五三	四一	一〇二	一一五	三七一	四九	四九
計	一三三、四三七	二三〇、二〇六	二二〇、一〇八	二〇一、〇四〇	一六八、〇六六	一四二、〇二七	一、八四八

種材	年度						備考
	元年度	二年度	三年度	四年度	五年度	六年度	
杉	三三、三五〇	八〇、六〇五	一〇九、八〇五	一〇三、六七一	五九、一六六	四三、〇〇九	八四八
松	六八、三八四	一五〇、一五一	一一〇、四九八	八九、三四〇	八九、七一一	九〇、二八九	三二一
榿	三六、五五三	四一	一〇二	一一五	三七一	四九	四九
計	一三三、四三七	二三〇、二〇六	二二〇、一〇八	二〇一、〇四〇	一六八、〇六六	一四二、〇二七	一、八四八

一、木炭六、〇五六俵
 一、醋酸石灰 一三袋(十三貫入)
 又大正元年度以降連年受入貯材高を示せば左表の如し

種材	数量		備考
	丸	角	
杉	一、二二三	九七〇	〇、二五
松	一、〇八八	八〇六	〇、二五
榿	九七〇	〇、〇六	〇、二五
計	二、二一一	一、七八二	〇、七五

種材	数量		備考
	丸	角	
杉	一、二二三	九七〇	〇、二五
松	一、〇八八	八〇六	〇、二五
榿	九七〇	〇、〇六	〇、二五
計	二、二一一	一、七八二	〇、七五

本月一日現在當場の貯材高左の如し
 一、造材 一六、〇八六本
 一、盤及挽角 六二六本
 一、榿丸 九二九九

種材	数量	備考
杉	一、二二三	〇、二五
松	一、〇八八	〇、二五
榿	九七〇	〇、二五
計	二、二一一	〇、七五

生産地	製別	数量	備考
谷山北平	造材丸	二五、九八	〇、二五
安田川山	造材丸	九三、三三	〇、二五
野川山	造材丸	三三、五五	〇、二五
計		一五二、九一	〇、七五

果實の力
 朝の果物は黄金で
 夕の果物は鉛である
 果物は健康増進に最も有効な食物なるに拘はらず、一部の人は贅澤物と考へて居ます。が是は大なる誤です。
 果物は水分、酸類、糖類、糖分などが含有されて居ますので、之に刺激されて人間の血液が清潔となり、林檎、柑梨等の果物、肉食其の他濃厚反食物を取る時に其の消化を助けます。果物の種子は、堅い外側の歯でよく噛み碎いて食べれば柔らかい食物ばかりを多く食する現代文明人の腹部運動に適當の變化を與へ、便秘を調節します。西洋の昔の諺に「朝の果物は黄金で夕の果物は鉛である」と云ひますが、是は現代科學に何の根據もないので三度の食事毎に食べる人も、日に一度食べる人もあるのです。これは其の人の嗜好に任せてよいのです。併し葡萄の如き非常に酸性の多い果物を、

摘要 以上軌道に依る「トロッパー」一臺に對する積載量は造材十五石内外、板六十束内外木炭六十俵乃至七十俵とす。
 當場と神戸市場との運搬關係
 當場に於ける販賣製品の引渡は現場に於て現狀の儘引渡すものにして目下労働賃金暴騰の結果運賃の如き殆んど従前の倍額を要することとなり現時に於ける神戸市場への海上約百二十哩に對する着港外渡運賃率は即ち左の如し。
 當地方は古來木材の貯藏地として之れに従事する約百二十名の多數労働者を有し加之技術最も優秀なるを以て汽船の如き一日に、二千石内外の積込をなすは易々たるものにして、十餘艘の帆船一時に輻湊するも海上風波なき限り何れも一日に荷役を終るは通常事たり尙ほ廻送に従事する當地方の帆船約三十隻に上る斯の如くして輸送事業に滞滯なからしむるは當地方の特徴とする所なり。

c 特許面積
d 毎年の最小課税高
e 毎年の最小伐採輸出量
f 林木の種類
然り而して其最小課税高及最小伐採輸出高は森林の位置面積の廣狭によりて斟酌を加へ交通の便利にして貴重樹種の蓄積大なるものに於ては其額を増加し之に反するときは之を適當に減少し以て其の伐採量に對し公平を保つに努めたるが如し而して其の特許の期間は通常三十ヶ年とせり。
此方法に依る特許は其の名稱に於て森林の租借と稱すれども土地を包含せざるものにして單に地上立木の伐採搬出権のみを附與したるものなり此方法は其の特許期間の長期に渉るものあるにより企業者に於て採木集材其他の施設に對し適當の設備をなすに適し且一定の期間木材の供給を繼續するの便あるを以て資本案の企業心を誘致し「北ホルネオ」の森林の利用開發上裨益したるもの少なからざりしなり其の現に東部海岸地方に於ける國有林の伐採搬出に從事するもの多くは此の特許を得たるものなり然れ共此方法に於ては國有林管理上種々の弊害を生ずるものあるに至り一九〇一年に至りて之を廢止し新に發布したる法令は同年法律第八號にして今日現在實行せらるるものなり此法令に依れば林木伐木の許可は土地局長の名義を以て發行するものにして之を「Timber License」と稱す

此の特許狀に於て表示する命令條件は次の如し
a 伐木森林の所在地名
b 面積
c 最少課税高
d 伐採林木の種類
e 林木拂下代金及輸出税
f 伐採し得べき林木の最少胸高周圍
而して前者の如く特許期間及毎年の最少伐採量を指定することなし然れ共特許権者は其最少課税高を上納し善意に其事業を繼續し前記の指定條項を履行する間は其の權利を取消することなし。
最少課税高は一種の特許料の如きものにして特許権者が其森林を伐採せず若くは伐採するも之を輸出せざる場合に於ても年々政府に納付すべき料金にして其最少課税高に比し木材の拂下代金の方大なるときは別に之が納付を要せず又木材拂下代金之に及ばざるときは其差額を納付すべきものとす此種材木、伐採の特許に關し法令上定められたる重要な事項は左の如し
一、木材伐採特許権者は其特許の保證金として一口に對し一〇〇〇弗を納入すべし此保證金は其伐木權の終了の際に於て拂戻すものとす
二、最少課税金毎半年之を前納するものとす
三、特許権者は其森林の特許區域に對する境界を表示すべし而して若し政府に於て

之が實地測量の必要なる場合は之を測量し其費用は毎英反の面積に對して二十仙若くは其測量線延長每一哩に對し百弗の測量費を納付せしむ
四、下記の場合に於ては特許権を取消せしむ
伐採特許區域に於て伐木を實行せず若くは其面積に比して相當量の伐木をなさざるるとき(此相當量は大凡そ六四〇英反に對し「五〇、〇〇〇立方尺」)
特許區域の森林が永久の農用地として政府に於て必要なりと認め之が開墾に着手したるとき
特許権者が其伐木業を廢止したるとき
五、伐採したる木材の量は毎半年毎に之を纏め木材伐採表を作り政府に提出すべし
六、一般の林木にありては地上胸高の點に於て周圍二呎「マンダローブ」林にありては其地上三尺の點に於て皮下徑四吋以下の材木を伐採すべからず
七、總ての野牛護謨樹は胸高直徑八吋以下のものは伐採すべからず
八、「ダマール」又は樹脂採集の目的に向ては何種の伐木を問はず之を伐採すべからず
九、伐木者は本人なる使用雇人たることを問はず盡く入林鑑札を携帯すべし
(山林局調査、未完)

通信

秋田便り

秋田市にて 田中 生

△卒業生の還近程愉快なものはない、小林君とは去年の五月以來机を列べて仕事をしつゝあるが、寄ると觸ると蘇門の話ばかりであるが、去年の十月の末だつたと思ふ、阿仁嶺山にゐる田中吟重君に暮れてから途上でピツタリと出會した、初めは誰だかわからなかつたが、僕の持つてゐる林區署の提灯が導火線になつて、お互ひに名乗り會つて見れば同じ集を舞ひ立つたものであつた、僕の官舎に一泊して大いに飲み大いに語つた。
△今度講習に來て見ると同窓生も四人ゐる花輪から來た小岩井君、早々から來た月田君、本署の近森君、それに僕を加へて四人一月十九日の夕刻、川端の魚金に集まつて小さな蘇門會を開いた、互ひにかくして藝をさらけ出して騒ぎまくつた、やがておなじみの「ナカノリサン」も出て身は茲にありながら心は遠く岐蘇に走つてゐた、開散したのは夜の十二時、
△それから次ぎの土曜日退廳後大曲町の縣立農學校にゐる大場先生を訪ねた、連路しかも夜分にもお構ひなく態々停車場まで出迎へてくれた、その晩から翌日の日曜日にかけて、四人して寄て端書を書いた、「昨日田中、小岩井、月田の諸君がやつて來たの

で小さな蘇門會が出來ました、今「ナカノリサン」の講習です、など先生は書かれました、「むつまじき蘇門を出でたる山男、浮世半日語り暮せり」など、書いた者もあつた、又「今日大場先生や皆様と集つて盛んに話してゐます、話しの切れ」に先生の温顔がちらちらと頭の中を往來します、など、書いた者もありました、かうやつて水入らずの面白い會合に盡きない名残りを惜しみつゝ日曜日の午後三時の汽車で歸途、着きました。
此の行に近森君が用事が出來て同行の出來なかつたのは残念でした
△新庄小林區署にゐる原君が技手に昇進して本署の施業案に入る事になつた、未だ着任しないが赴任したら皆して寫真でも撮つて校長先生にでもお目にかけようかと話してあつてゐる(八二二二)

文苑

和歌

病裡雜詠 (その二) 宮下更村

油繪の乙女ながむる人若し
ダリヤに輝く朝の陽さしに
わかうどの浪花に去るを見送りて
京の夕べに語る日を期す
雨をばふる京の夕べのラグリスト
病む身は次へと想出の湧く
日傘して若き乙女も欄に凭る

ねざめの紅葉水に流れたり
夕べ路にもらし紅葉友にわけ
秋よと語れば夕映のする
薄日さすいもの枯葉にかまきりの
むくろも見わけて秋深みけり
落葉焚く煙の亂れてくれ近し
あたふた歸るもみぢ觀の群
満月のさし出で初めし東天に
劃りするるとき駒のしら峰
月かげに濡れつゝ立てる青桐に
さと流れたる大あらしかな
スキートホーム (承前)
坂 本 生

第四場

舞臺面は食間の光景と變る
女史「貴も随分意地張りねこれほど御願ひするの一生恨みますよ
義雄「マア折角なんだから今日はゆつくりして呉れ給へ別に悪魔の居る家でもないんだから逃げる事もいるまい
鐵郎「悪魔は居ないが恐ろしい女王が居る僕は愈々人身御供の運命か何といふ不幸な日だらう(苦ガリキツテ居る)
女史「では一寸失禮して鹽梅を見て参りませう(女史勝手ニ退く)
義雄「不相變君は客氣だ何時迄テヨンガ(獨身者朝鮮語)であるつもりかね、早く音楽好きの佳人でも貰つて琴瑟相和したまへ

營子「何をいひだね貴に料理の味がわかるもんですか... 鐵郎「愈々學理の鑑定が全く科學的だ(女史「何卒御試み下さい(叔父母エ差出ス)...

義雄「イヤ叔母さん鴨川君こそ今日はひりに止められてごんでもない御迷惑... 鐵郎「叔母さん!大變!大變!あなたを連れて来られたベスが先刻のスープを甜めて死にかつてゐます多分助かりますまい...

林作「標正シ」緑、わかたかね... 林作「ハイ、ハイ」... 叔父「わかたならよろしい、では營子僕も御腹が空いた様ぢやがのお前も手傳してモ...

(巻煙草ヲ取り上ゲ吸ヒツク) 秋の麗かな澄み切つた空には雁の一群南を指して行く... 翌日午後辞令を手に、廠員一同に挨拶に廻ると此度自分が營林廠を辞して製紙會社へ入社する様になつた事は親しき友人の外知らなかつたので皆不思議がら「坂本君!俄かに何うしたのだ何か昨日の芝居が廠長のお氣にでもさはつたのか...」...

招待された禮について... 「願れば生が入舎してよりいつしか愛に二星霜、この間諸兄はよくこの腕白者を御指導下さいました、多幸にして此處を去ることの出来たのは偏に諸賢が御薫陶の賜であると思ふ感謝する次第であります、あゝ樂しかりし此の樂園、月、雪、花の眺めに親しみなれし此の窓は私の生涯忘れることの出來ないもの一つとなりました、近く懐しい諸兄と山川遠く別ればならぬ悲しい運命となりましたたがたとへ此の身は新義州の地を離るるも魂は決して自修舎は去りません四時をり、につけて茂るヤカシヤの葉蔭よりもるゝ燈火を戀ひ慕ふことでありませう。...

Table with election results: 庶務部 (高橋秀惣, 安藤清吉, 小池常三), 雑誌部 (深澤佐愛, 立道乙松, 直井利雄), 辯論部 (千田瑞穂, 小縣球次, 田中一), 擊劔部 (米倉巧, 吉田正男, 吉村幸助), 庭球部 (遠山虎雄, 向井一男, 橋爪滋), 弓術部 (長田克己, 八木愿藏, 紺田幸三), 柔道部 (村上道信, 花村準則, 矢野佑), 遠足部 (五十票).

雜報

學校便り... 學年末試験 三月十日より開始十八日終了廿三日證書授與式... 校友會役員選舉 二月十三日來年度校友會役員選舉を行へるが開票結果左の如し但

百二十五票 中越三郎
 百六票 長崎信一
 三十六票 山中三十四
 ○柔劍道進級者證書授與式 柔劍道進級者
 に二月十一日大會の際進級證書を授與せ
 り人名左の如し

柔道部

一級 伊東近良
 三級 富士川金二
 福川庄三
 古畑要司
 花村準則
 長田克己
 宮下武夫
 震上正二郎
 渡邊時夫
 中島省三
 伊藤傳三
 柳澤虎三
 林森
 西村晴志
 岡西萬秋
 原英雄
 吉田武夫
 小桂二郎
 原舎二部
 今野啓三

五級

劍道部

卒業生擊劍進級證書を受けし者
 二級の下 伊東近良

全 三級の上 吉澤豊一
 全 三級の中 丸山林一
 全 三級の下 藤澤甲子
 全 四級の上 井上新次
 全 山本茂郎
 全 宮下武夫
 全 小林盛太
 全 米久保春雄
 全 中村治郎
 全 星加晴雄
 全 富士川金三
 全 小松義三
 全 古畑要司
 全 山崎多門
 全 佐塚甲子

會員消息

○倉科浦一郎君 岐阜縣廳山林課へ轉任せ
 らる。
 ○渡邊知則君 北海道虻田郡俱知安町俱知
 安營林區分署に轉せらる。
 ○西尾彰君 出征中の所今般北海道膽振國
 王子製紙株式會社苦小牧分社に勤務の事
 となる。
 ○大久保猪三郎君 福島縣東白川郡棚倉小
 林區署に轉勤せらる。
 ○小田實君 入營中の處今回帝室林野管理
 局名古屋支局下呂出張所に勤務せらるる
 こととなれり
 ○原潔君 秋田大林區署勤の所山林技手に
 任せられ同署施業案係に勤務

謹告

○勅使河原角藏君 舊性大島この度右様改
 姓せらる。
 ○渡邊隆知君 不幸感冒より肺炎併發二
 月二十四日死去せらる哀悼に勝へず
 ○上田文夫君 在學中三月五日死去悼惜の
 情に勝へず
 ○加藤正次君 滿州吉林省城富寧造紙有限
 公司に入社公司員拜命同司に勤務
 ○太田喜代松君 永々病氣の處藥石効なく
 二月二十八日永眠せらる謹みて哀悼の意
 を表す
 ○原治二君 入隊中のところ今回北海道廳
 拓殖部に奉職せらる住所札幌區北八條一
 丁目林方

左記諸兄の住所不明の爲め會誌林友發送致
 し兼ね候間御存知の方は御手数敷恐縮には候
 へども至急御一報願上度此の段謹告候也
 卒業回数 姓 名 卒業回数 姓 名

- 一 青戸爲九郎 二 鶴飼政義
- 二 畑卓二 三 木下安太郎
- 三 山下常紀 三 宮崎清太郎
- 三 古畑金藏 六 塩澤英一
- 七 小林佐久馬 七 岡戸郁二
- 八 菊地貞次 八 小池一平
- 九 伊藤德之亟 十 下枝壽一
- 十 上田彌太郎 十一 二木季人
- 十一 長谷川房藏 十二 等々力官一
- 十二 池野萬次郎 十二 柳澤止之進
- 十三 小池茂樹

大正八年三月廿三日印刷
 長野縣西筑摩郡福島町四〇番地
 正夫
 長野縣西筑摩郡福島町五七〇番地
 印刷所
 (定買金參見)